月桃通信 No11　2019年３月３日

石原艶子

「県民投票成功も一顧だにされない沖縄」

◎主を畏れることは知恵の初め　聖なる方を知ることは分別の初め（旧約聖書　箴言）

◎人は何度でも立ち上る。立ち上っては倒れ、立ち上っては倒れ、その足もとはおぼつかないかもしれない。けれども、立ち上ったことは、一生忘れることのない、かけがえのない記憶となる。（ガンジー魂の言葉から）

去る2月24日、辺野古埋め立ての賛否を問う県民投票は投票率52、48％、反対が72％で43万票、有権者の4分の1超えという結果となりました。沖縄の人々と心ひとつにして支援して下さり、お祈り下さったすべての人たちに心からの感謝を申し上げます。当初から投票率50％を超えるが非常な不安と危機感がありました。そんな中、私達は、あの全県実施への戦いの力と玉城デニー知事を誕生させたあの力をバネにして心ひとつに短期間を走りぬきました。私は体力にも限界ありで小さなことしか出来ませんでしたが、交差点に朝立ち、夕立ち「埋め立て反対に〇を」の旗を掲げて一生懸命呼びかけました。投票日当日には時おり雨が降る中、投票所の入口に立って、「反対に〇を」のウチワをかざしながら呼びかけました。反応がスゴク良くて手ごたえを感じる中、夜に県民投票成功にどれだけほっと安堵したことでしょうか。私達みんなみんな抱き合い手を取り合い喜び、お互いの労苦をねぎらいました。翌々日、私は辺野古ゲート前に行きました。工事は休むことなく強行され３００台以上のダンプが、座り込む私達を排除してゲートから入っていく、いつもの光景がそこにありました。初めから期待出来ないことは分ってはいても、せめてデニー知事との話し合いをする迄の間ぐらい工事を休止することは出来ないのか、一滴の情もないその政府の非情さにやりきれない悲しみを抱きつつ泣きながら抗議しました。私の隣に立っていた女子学生さんが溢れる涙をぬぐいもせず、じっとプラカードを掲げている姿に思わず「悲しいね」と言って一緒に泣いてしまいました。安和の土砂搬出港では一日三船が土砂を積んで辺野古の海を埋め立てています。

毎週水曜日は集中行動日です。朝6時に地元石川をマイクロバスで出発して安和港、ダンプの出入口で抗議行動を午後３時迄頑張っています。この日はカヌー隊（辺野古ブルー）が土砂を満載して出港する運搬船の進路に立ちはだかり大活躍、海保に強制排除されるまで船は出港出来ませんでした。この日は半分しか土砂搬出が出来ないという、すごい働きをして下さいました。カヌー隊の一人一人の勇ましさ、青い青い海に浮かぶ一見か弱いカヌーに乗る一人一人の勇姿に感動しつつ、ここまでやっても一顧だにしない政府、国とは何者なのでしょうか、県民投票で民意を示しても、虫けらのように沖縄の民を踏み潰していく国とは、もはや私達の国とは言えません。

大浦湾の軟弱地盤は７０m～９０mあり杭を7.6万本打つことになり工事は不可能との専門家の意見もある中、政府はあくまで可能だと言い切り、強行姿勢です。国民の税金が２兆何億をはるかに超える青天井に拡大、期間も何十年にも及び予想も出来ません。その上現在も警備費だけで一日２千万が消えているのです。多額の税金で苦しんでいる国民が沢山居るのに、本当にこんな税金の使われ方を何故、許しておくのでしょうか。こんな無責任な工事は今すぐやめるべきです。県民投票の民意は沖縄の人々の平和を願う心の叫びです。本土の人々に向って「日本は戦争する国、武力によって立つ国になってもいいのですか、憲法9条を捨てても本当にいいのですか」と必死で問いかけているのです。今回の県民投票では自民党、公明党の中からも多数の人達が埋め立て反対に〇をして下さいました。これが沖縄の人々の正直な心だからです。もう政府によって二分、分断されないように故翁長前知事が言われたオール沖縄を取り戻さなくてはならないと強く思っています。投票日、入口に立って呼びかけていた時、トボトボと自力で一生懸命歩いているお二人の御老人にお会いしました。手を貸そうと声をかけても「大丈夫」と言われ、長い時間をかけて投票をされて帰って行かれました。そのお姿は「戦争は絶対にダメ」一票を必ず投じるのだとの強い強い意思がみなぎっていました。そのお姿を見て、私は涙が出ました。平和を願うこのような老人の一人一人こそは一粒の麦となって死に、次の時代への実りを生み出し命をつなぐ存在だと、強く思いました。

★テレビなどマスコミは平成天皇退位のイベントを大々的に伝えています。お茶会に招かれたスポーツ選手や、平成時代に活躍した多くの著名人が感激の言葉を語り「一生の宝ものです」「栄誉に預り感激」とか語っている姿を見て、天皇制にからめとられた日本人の精神構造の貧しさ、思考停止の状態を見て、紙一重で天皇が神となってしまう恐ろしいマインドコントロールの現実を突きつけられた思いがしました。天皇陛下のためにと死んでいったあの若者達の死は一体何だったのですか、何か起きても反対の声も上げない精神が天皇制の中で既に作られているこの現実は、まるでかつての開戦前夜のような恐ろしい空気がこの日本を被い始めているのではないかと私は感じるのです。天皇主催のお茶会に招かれて、お声をかけて頂いてそれを栄誉として喜び誇る人々の中に原発や沖縄、そして朝鮮半島の人々に心を寄せる人が居るのでしょうか。安倍政権は、天皇行事やオリンピックなどで国民の目を上手にそらしながら、自分の嘘、偽りを平然と言葉たくみにすりぬけて延命を測り、目的としている憲法改悪、日本列島軍事大国を、美しい日本として実現しようと画策しているのでしょう。簡単にだまされる日本人の姿、沖縄を踏み潰しても何も感じはしないことでしょう。既に石垣、宮古、南西諸島に防衛ラインが引かれ住民の反対を押しのけて既に自衛隊基地建設が強行されています。

イエスは言われた「剣をさやに納めなさい、剣を取る者は皆、剣で滅びる」(新約聖書マタイ福音書)

戦後７４年の今、私達は経済的には豊かになり、飢えの時代は忘れ去られ、今や膨大な食糧を捨てる国になりました。一方で深刻な孤独死、沖縄でもこの三年間で４３１人と報じられています。また幼児虐待、学校でのいじめや自殺は後を絶ちません。どこかで私達が生きるこの社会は内側からガタガタと崩れ始めています。政治家、官僚などリーダー達は自己保身のため平気で嘘、偽りを語りもはや言葉への信頼は地に落ちてしまいました。このような時代に私達はいかに生きるべきなのでしょうか、嘆いているだけでは始りません。